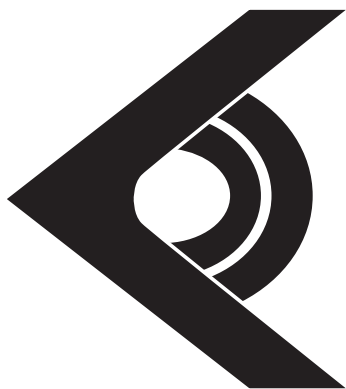


総務文教常任委員会

管外研修視察レポート

平成29年10月10日から12日にかけて、総務文教常任委員会一行（西山委員長）10人が、夕張郡栗山町において『デマンドバス運行事業』について、行政視察を行い、その概要については次のとおりです。

【夕張郡栗山町】



1、まちの概要

栗山町は、札幌市や新千歳空港、苫小牧港からそれぞれ車で約1時間の道央圏に位置しており、周囲が岩見沢市、夕張市、由仁町、

長沼町と接しており、人口は約12,000人、東西17.5km、南北25.1km、総面積203.93km²の面積を有する町で、北西部では国道や鉄道が通る交通の拠点として中心市街地が形成され、道内各地からのアクセスの良さが魅力となっている。基幹産業は農業で水稲や小麦をはじめ豊富な農産物が収穫されているほか、商業、工業もバランスよく発展している。



2、栗山町のデマンドバス運行事業の導入経緯

栗山町における地域間交通ネットワークは、隣接する岩見沢市・夕張市・長沼町・由仁町とは鉄道もしくは民間路線バスが運行している。また札幌市へも民間バスが運行しており、栗山市街中心部にある「カルチャープラザEki」に鉄道駅とバスの停留所が集積され、民間バスとも接続されている。

一方で、栗山町内の公共交通は、平成2年に民間バスの撤退により、交通弱者の町内間移動の足とするべく町営バスの運行がスタートし現在に至っている。そもそも民間バスの撤退路線であることから収支は非常に厳しい状況であり、さらには人口減少や家用車の普及に伴う利用者の減少、また燃料高騰による運行経費の増など、運営は厳しさを増している状況であるが、高齢者等の生活に必要な

な交通手段の確保は重要であり、とりわけ、南部地区と病院や商業施設が集中する栗山市街地を結ぶ交通網は、地域住民の生活に不可欠な足として廃止することのできない路線となっている。

平成17年に効率良くサービス低下を招かない運行を目指し町営バス検討委員会を立ち上げ、大学の先生等専門家の意見を聞きながら色々な運行方法の検討を開始。平成20年3月に栗山町地域公共交通活性化協議会を設置、平成21年3月に栗山町地域公共交通総合連携計画を策定した。

平成21年11月よりデマンド便の実証実験運行を開始、平成24年8月より路線等の一部見直しをして本格運行の導入となった。現在は毎年、栗山町地域公共交通活性化協議会において運行等について協議をしている。

3、まとめと考察 【町営バスが運行しない区域を対象に】

栗山町では、デマンドバス区域とコミュニティバス区域の2つの運行区域を設定し、交通弱者等に対する公共交通の充実化を図っている。

デマンドバス事業では、町営バスが運行しない区域を対象に2路線（日出線・滝下線）を運行しており、年間の利用者数は各路線、4,000〜5,000人程度、利用料金は1乗車につき200円で、70歳以上の高齢者と小学生は半額としている。

運行業務は、町内業者に委託しており、観光バス業者1社、タクシー業者2社による3社で、毎年、業務（路線）ごとに入札を行ない、年間1路線当り約600万円の運行経費で委託している。なお、委託料の中心は人件費、燃料費、油脂（エンジンオイル等）、

被服費等で、修繕費（車検等）、消耗品（タイヤ等）については町の負担としている。

なお、運行車両は、日出線14人乗りハイエース、滝下線は58人乗りのバスにより運行を行っている。



【利用者の約8割が高齢者で概ね良好】

デマンドバス利用者の約8割が高齢者で、目的の多くが買い物、その他、病院や他市町村への中継として利用されており、利用者からの反応は概ね良好で、実証実験も含めて運行から約9年が経過し、事業自体は住民に充分根付いている。

現在は特にPR活動は行なっていないが、実証実験開始時や本格運行開始時には町広報誌への掲載、対象区域へ出向いての説明会、対象区域全戸へのチラシ配布等、きめ細かく分かりやすい方法で周知に努めていた。

特に地域説明会では、何らかのイベントとできる限り組み合わせ、地域住民の約8割が参加していたように、町民意識の高さには驚いた。

【予約は30分前までで、どこでも乗車可能】

実証実験中は予約を複数ヶ所で受け付けていたが、連絡不備により予約便が動かないことがあったため、本格運行導入時には予約受付も運行委託会社へ一本化した。

また、予約は運行時間の1時間前までとしているが、当該路線のみの運行としているため、実際は30分前までであれば予約を受け付けている状況にある。

なお、予約箇所から隣家への移動等は基本的に断っており、その他で予約があり通過する区間であれば、どこでも乗車可能となっている。

【時間帯の見直しと赤字の縮小】

乗車人数は年々減少傾向にあり、主に高齢者の利用が多いため、施設入所等で地域から離れた際に利用が

無くなるのが大きな要因の一つとなっている。

現在の稼働率は企画運行回数に対し81%程度の運行であるが、年間を通して利用の少ない時間帯の見直しや料金の値上げをせずに赤字を縮小する方策が今後の課題となっており、また、今後、民間バスの減便が決定している区間があり、高校生の通学への対応が迫られている状況となっている。

【町民に便利だと思わせるデマンドバス】

今回、視察した栗山町は、面積は当町と同程度だが、人口規模は約3倍となっており、町内には、品揃えが豊富な食料品スーパーや総合病院もあり、基本的には町内で生活が完結できる環境にある。

一方、当町には、食料品のスーパーがなく、町内で生活が完結できる環境にあるとはいえず、町民の多くは生活必需品を求めて町外へ流れている現状もあり、町内運行のデマンドバスでは対応できない部分も多くある。今後、交通弱者に対する支援は大きな問題であり、特に運転免許の返納を考えている高齢者の事を考えると、その対策は急がれる。

デマンドバス運行には、それぞれ特有の課題を抱えながら実施し



ているのは、どこの自治体も同じであるが、当町においては、今後、実証試験で明確となる多くの課題を洗い出し、それらを解消しながら、きめ細かく利用者や町民から意見や要望を聞いて、町民に便利だと思わせるデマンドバスの運行を望むものである。

視察参加者	
委員長	西山 和夫
副委員長	花井 泰子
委員	五十嵐捷爾
委員	吉田 峰一
委員	松井 盛泰
委員	成澤 五郎
委員	木村 一
委員	笠松 悦子
委員	谷口 康之
議長	伊藤 政博
総務企画課	
企画振興係長	大谷 晃介
議会議務局長	村上 義久
係長	筒井 俊介